

CLINIC  
ばんぼう

開業医をサポートする総合情報誌

BAMBOO

April  
2021.4  
Vol.481

[特集]

診療所を1チームにする

# 先駆者が実践する 組織マネジメントの かたち



# Kazutada Oki

やちよ総合診療クリニック院長

## 沖 一匡

**おき・かずただ** ●2007年、琉球大学医学部医学科卒業。相澤病院、高山赤十字病院、アンボロソリ記念病院、千葉徳洲会病院、西山救急クリニック等を経て20年11月、やちよ総合診療クリニック開業。日本外科学会外科専門医、日本救急医学会救急専門医、麻酔科標榜医、日本外傷診療研究機構 JATECインストラクター、日本医師会認定産業医、認知症予防学会認知症予防専門医、認知症サポート医、健康スポーツ医



### 求められる医療を追求して 開業半年以内に軌道に乗せる

——自己紹介をお願いします。

**森** 緊急事態宣言中の2020年5月末に、東京都北区の赤羽で糖尿病や慢性腎臓病（CKD）の重症化予防に特化した診療所を開業しました。

現在の1日当たりの平均患者数は40人で、CKDのステージ3〜4の方を中心に、そこにつながる生活習慣病の方も診ています。スタッフは非常勤を含めて9人で、医師は私だけです。なお開業初日の患者数は20人程度でした。

**赤松** 大阪市北区のターミナルである梅田で、20年9月1日に開業しました。もともと「都市部で働くビジネスパーソンの医療アクセスの課題を解決するコンビニクリニック」を目指して開業したので、立地はオフィス街の中心にこだわりました。ですので一番の特徴は利便性です。平日は午後10時まで診療し、院内で処方もしています（緊急事態宣言等もあり鼎談時は午後9時まで）。

患者数は開業初日が15人。現在は100人程度まで増えましたが、9割はPCR検査あるいは発熱外来の患者さんです。

**沖** 20年11月、千葉県八千代市で救急も受け入れる総合診療をメインとする診療所として開業しました。CTやMRIなどのハードに加えて、看護師、リハビリ部門のセラピスト、放射線技師、医療クラークなど総勢約20人のスタッフを採用し、開業時からソフト面も充実させました。診療時間は平日午前9〜午後9時、土日も午後6時まで診ています。

初日はインフルエンザ予防接種も含めて約100人でした。現在は平均約120人で、多いときは150人程度です。首都圏の新興住宅街の駅に近いロードサイドに立地し、周囲には競合がほとんどないことも、多くの患者さんが来院されている要因の一つだととらえています。

——外来患者の減少に多くの診療所が悩まされたコロナ禍に開業されたにもかかわらず、早くも地域から支持を得られていますね。コロナ禍で開業スケジュールやコンセプトなど、何か見直されたことはありましたか。

**沖** さすがに3月ごろは動揺しました。自分の構想していた診療所の開業には、先述したようなハードとソフトの充実が不可欠であり、初期投資（約3億円）も大きなものなるからです。もともと、開業場所は自宅

から5分ほどの場所で土地勘があったし、医療ニーズは高いにもかかわらず診療所は少ないという地域事情を把握していたので、「絶対に行ける。投資回収できるはずだ」と、4月から建設に着工し、夏ごろからはスタッフの教育や開院の準備に力を入れました。とはいえ、開業初日に100人ももの患者さんに来院してもらったときには、ほっと胸をなで下ろしたというのが実情です。

もちろん、開業時からある程度の患者さんに来てもらえるような努力はしました。たとえば、開業半年以上前から建設予定地には新しい診療所をイメージできる看板を立ててPRし、同時期からスタッフ採用を意識して診療所のHPを開設しました。

また八千代市は前年度インフルエンザワクチンの在庫が少なかったと聞き、開業前から医薬品卸などを回って夏ごろには1200人分のワクチンを確保しました。

**赤松** 私も特に悲観はしておらず開業のスケジュールも予定どおりに進めました。というのも、開業エリアの特性として、患者さんの年齢層が比較的若いことに加えて初診や検診のニーズが高いと見込んでいたからです。近隣に発熱患者さんを積極的に受け入れている診療所もあまりな